

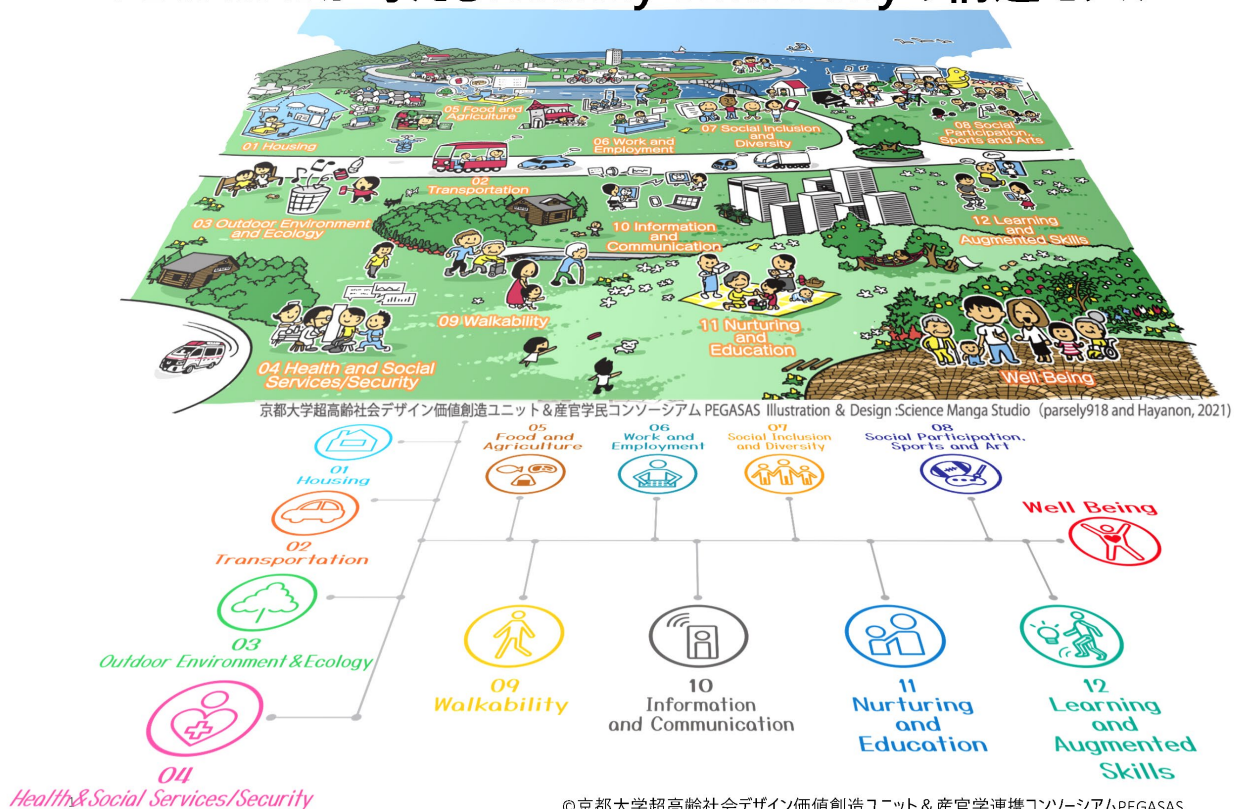
産官学民コンソーシアム“PEGASAS”が考える Healthy Smart City の構造モデル —「健康・医療・介護」の視点から超少子・超高齢社会の新しいあり方を提案—

概要

超少子・超高齢社会において、全世代が多様な価値観のもとに活動し、健康、QOL、Well-Being の向上と自己実現を行える社会が求められています。生きがいや健康・幸福（Well-Being）を目指す社会を実現するためには、そういう「まち」のモデル、即ち**ビジョン**が必要です。このようなモデルを考え実現していくためには、まず、京都大学内でまちづくりに係る研究を行う、多数の学問領域の研究者で京都大学 超高齢社会デザイン価値創造ユニットを公式に立ち上げました。このユニットでの活動をベースに、企業、行政、アカデミア、そして人々が協働して力を発揮し貢献していく、オープンイノベーションプラットフォームという場の必要性を感じ、産官学民コンソーシアム“PEGASAS”（PEGASAS：Open-Innovation Platform of All-area Enterprises, Governments and Academia to Design and Realize Super-Aging Societies）が組織されました。超高齢社会デザイン価値創造ユニットを基盤とした PEGASAS では、あらゆるデータ、科学・技術を活用し、客観的な指標を把握しつつ、新しい産業エコシステムと社会の構築を目指します。議論を重ね、産官学民の技術革新にあふれ、Well-Being を目的としたまちづくりに必要な領域である住居、交通、食・農業をはじめ、社会的包摂、社会参加・スポーツ・芸術、学習、先進技術の応用など 12 の領域のあり方の提案を、都会や郊外などを限定せず「**Healthy Smart City の構造モデル**」としてとりまとめました。

2022年3月29日の記者発表では、フィンランド大使館商務部と共催し、PEGASAS の構造モデルとともに親和性のあるフィンランドの取組みをご紹介いただきました。

PEGASASが考えるHealthy Smart Cityの構造モデル



1. 背景

世界に先駆けて高齢化が進行する我が国は、これから世界中が直面する課題解決の先進国として、新しい社会のあり方を提示するには、「健康・医療・介護」の視点は欠かせません。超高齢社会・超少子化社会であっても、高齢者に限らず、子どもから大人まで全世代が多様な価値観のもとに活動し、健康、QOL、Well-Beingの向上と自己実現を行える「まち」が、都会や郊外など地域を限定せず、全国各地においてそれぞれの地域にふさわしいまちとして実現される必要があります。このような「まち」を考えるためには、どの地域でも参考となる「モデル」が必要です。また、モデルが実現するための、具体的なまちづくりの要素としてのモノやサービスの満足度に対する客観的な質指標も必要であり、指標を測定するためのデータ駆動型のモデルである必要があります。また、我が国の強みであるモノづくりから、コトづくりへ、そして、まちづくりへと、「健康・医療・介護」分野を飛躍的に発展させていくことが重要です。そのために、京都大学 超高齢社会デザイン価値創造ユニットをベースに、企業、行政、アカデミア、そして地域住民が協働して力を発揮し貢献していく場となるオープンで革新的なプラットフォームが必要となり、産官学民コンソーシアム“PEGASAS”が立ち上がりました（PEGASAS：Open-Innovation Platform of All-area Enterprises, Governments and Academia to Design and Realize Super-Aging Societies）。

この産官学民コンソーシアム“PEGASAS”は、**京都大学**の多領域横断的な**超高齢社会デザイン価値創造ユニット***（Age Tech 2021 Award 受賞）を基盤としています。全ての年齢層の人々がより生き活きと生活する地域づくりやライフサポート・社会システムの再構築という社会的要請に応えようとしています。医療・介護・福祉に関わるあらゆるデータ・情報と技術革新の利活用を土台とし、異分野協創、産官学民協働で、都市やコミュニティの実現プロセスを探求しています。

2. 方法・成果

産官学民コンソーシアム“PEGASAS”において、企業、行政、アカデミア、そして地域住民の視点から、健康、QOL、Well-Beingの向上と自己実現を最終目標として実現できる「まち」に必要な領域と、そのその領域のあり方をとりまとめました。

この「まち」では、ICT・データの利活用により、地域格差、社会格差、経済的格差、国籍や言語等様々な格差を是正し、人々が健康で幸せな生活を送ることができるスマートシティ（Healthy Smart City）を目指します。都会や郊外など地域を限定しない、全体最適に配慮した全地域についてのモデルであり、それぞれの地域にとって実現可能なまちを目指すため、12の領域を設定し（下図）、一つ一つの領域について、目指す姿の提案を文書化しています。下記BOXにそのごく一部を抜粋しています。

本モデルは、大きなコストをかけて箱物を作ることより、サービス、プロセス、システムの質・効率に目を向け、人々の活動や活動の場を重視したまちづくりのモデルです。また、結果として、近年ますます重視される持続可能な開発目標(SDGs)の全領域とも関連することとなります。

2022年3月29日の記者発表では、**フィンランド**大使館商務部と共催し、PEGASASの構造モデルとともに親和性のある**フィンランド**の取組みをご紹介いただきました。フィンランドは、国民のWell-Being向上、全世代において誰も取りこぼさない社会を目指し、健康・医療・介護を含む各領域において、国を掲げてイノベーションを醸成し産官学民連携の研究開発も進んでいます。

<PEGASASが考える Healthy Smart City 構造モデルの12領域： 内容抜粋>

01 Housing：デジタルサービスを活用した住宅の提供への経済的支援が適切になされる。全世代の健康データを分析し疾病の早期発見や予防、治療後のフォローに資するような建物・施設がある。

02 Transportation：公共交通機関や自家用車、タクシー等の移動手段は高齢者の目的地と住まいを適切に結び、安全・快適に運行されている。高齢者の利用に配慮した工夫がなされ、低価格で利用可能である。

03 Outdoor Environment & Ecology : 各地域に必要な社会インフラを再設計し整備することを通じて利便性の高いまちづくりを進めることにより、まち全体の生活水準の向上を図ることができる。

04 Health & Social Services / Security : まちには高齢者向けに充実した医療サービス、介護サービス（在宅・入所）、健康増進サービスや生活支援サービス等がまちに過不足なく整備され利用しやすい環境がある。

05 Food and Agriculture : 健康・疾病予防への食生活へのデジタルの活用や農林水産業へのロボットやAIのさらなる活用などを通じて、健康な食生活が推進される環境がある。

06 Work and Employment : 全世代が元気で働き続けられるまちでは、生きがいも生まれ、幸福や健康につながる。定年退職後も経験を活用できる雇用機会の創出、コミュニティが見守り、孤立を防ぐ体制がある。

07 Social Inclusion and Diversity : コミュニティ内で、地域イベントが多く開催され、高齢者も楽しく参加できる。高齢者や外国人など困っている人の元へすぐに支援の手が差し伸べられる仕組みが浸透している。

08 Social Participation, Sports and Arts : コミュニティや家族と一緒にレジャー、社会的、文化的、精神的な活動に参加する。また、イベントに関する情報が入手しやすく、会場へ適切なアクセスできる。

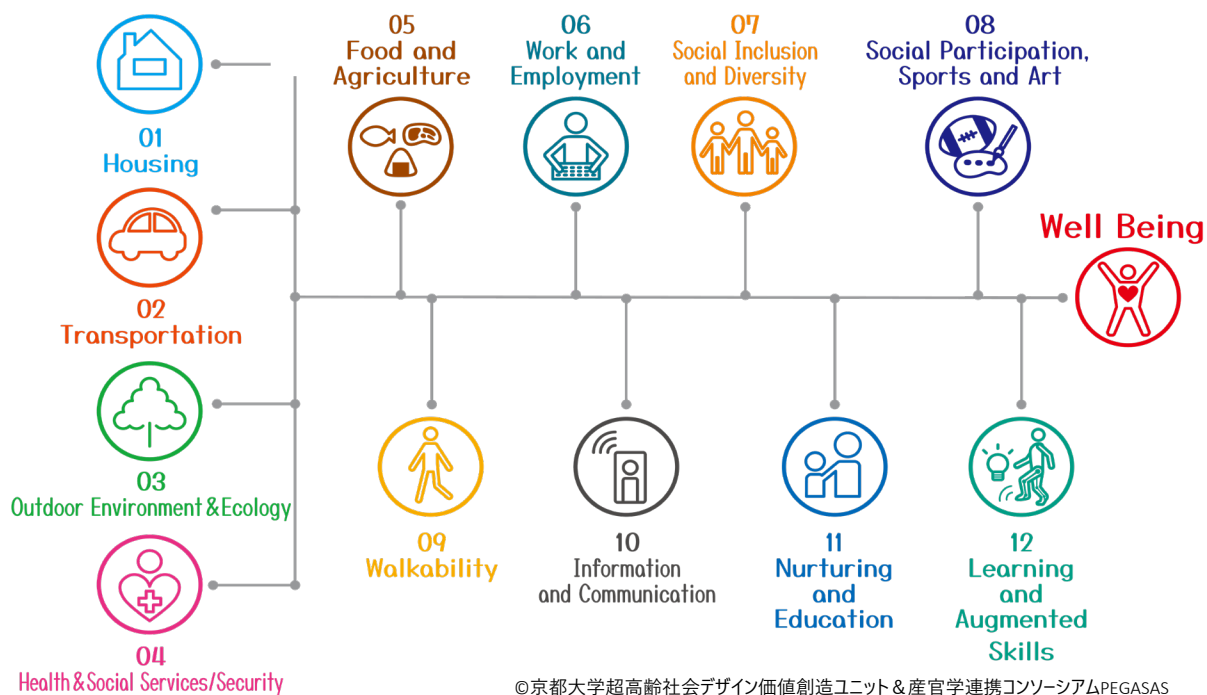
09 Walkability : 日常生活に必要な移動がウォーキングで可能な範囲に集約されていたり、安全性や景観の要素が加わり、自然と歩くことが促されるようなまちであれば、まちに住む人々の健康増進が期待される。

10 Information and Communication : 必要な情報を紙やTV、ラジオ等のメディア、Internet、サイネージや口頭での情報伝達など様々な手段が組み合わさり情報格差の解消を図り適時に容易に取得できる。

11 Nurturing and Education : こどもたちが夢をもち、チャレンジできるまちを目指す。子育てがしやすい環境を整え、教育を通じたまちづくりができる。子供が健康・医療・介護を学ぶ機会を作ることも大切である。

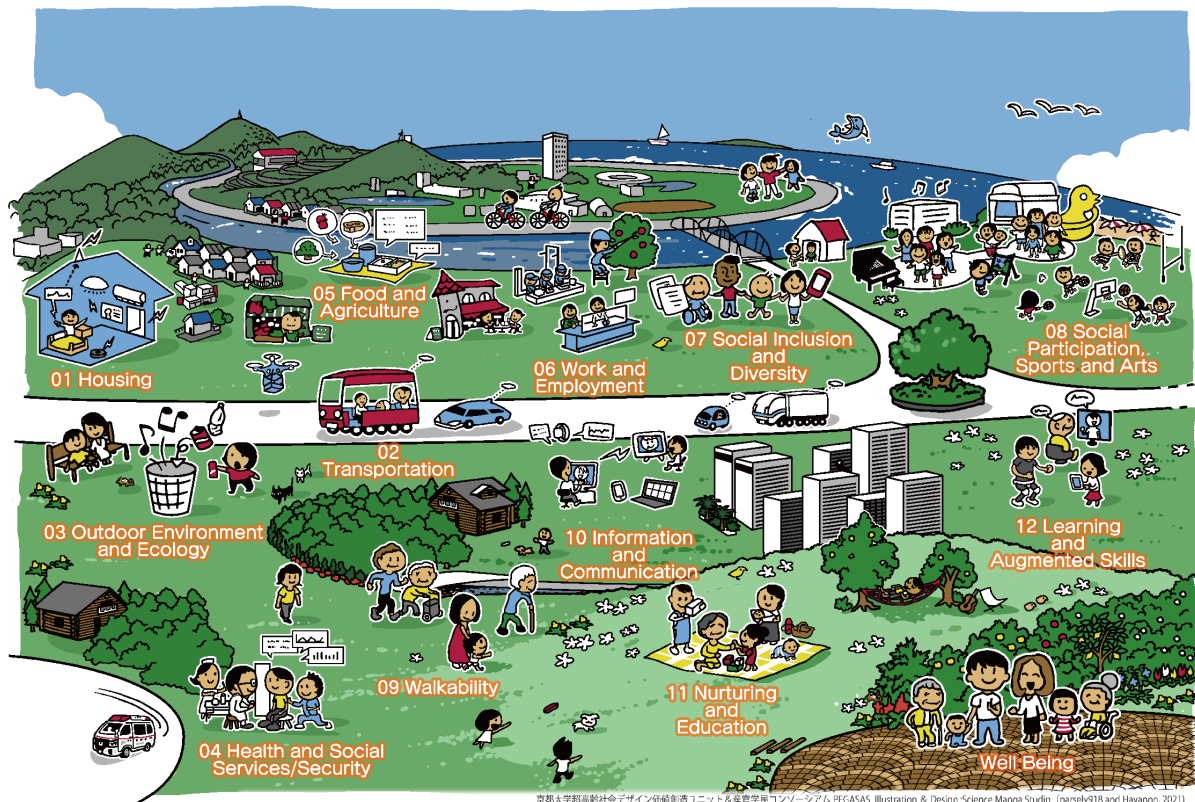
12 Learning and Augmented Skills : 少子高齢化に起因する医療・介護問題をはじめ、さまざまな社会課題について先進技術を適用し、私たち自身の機能を増強・拡張させることで課題解決を図る。

PEGASASが考えるHealthy Smart Cityの構造モデル



産官学民コンソーシアム PEGASAS <http://pegasas.umin.jp/>
京都市超高齢社会デザイン価値創造ユニット <http://super-ageing.kyoto-u.ac.jp/>





京都大学超高齢社会デザイン価値創造ユニットと産官学民コンソーシアム PEGASAS Illustration & Design :Science Manga Studio (parley918 and Hayano, 2021)

3. 波及効果、今後の予定

今後はこの PEGASAS の **Healthy Smart City の構造モデル** をもとに、全国各種データの分析による Healthy Smart City 指標を作成し、データに基づくまちの可視化を行い、各地域にあわせた目指すべきまちの設定に役立てることが考えられます。モデルの利用価値を高めつつ、モデルの実現化を進めていきます。

<研究者のコメント>

当研究チーム（**超高齢社会デザイン価値創造ユニット**）では、社会的要請に応えるべく、あらゆるデータと情報の利活用を土台とし、研究・開発・社会実践を通じ多角的・包括的アプローチをもって、エビデンス創出と可視化から、政策の立案、活動やシステムの設計、社会実装までを貫く、政策形成・コミュニティ形成プロセスを異分野協創して構築することを目指します。そして、国内のみならず同様の課題を抱える多くの国々をも支援する、名実ともに世界の国々から頼りにされる、世界のセンターを京大に協創することを目指しています。このユニットが基盤となって、産官学民連携コンソーシアム **PEGASAS** を立上げ研究開発活動を展開しています（**PEGASAS** : Open-Innovation Platform of All-area Enterprises, Governments and Academia to Design and Realize Super-Aging Societies）。

<お問い合わせ先>

今中 雄一（いまなか ゆういち）

京都大学超高齢社会デザイン価値創造ユニット ユニット長

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療経済学分野 教授

TEL : 075-753-4454 FAX : 075-753-4455

E-mail : heqm-office[at]umin.ac.jp ※[at]は@に置き換えて下さい

■研究者情報

[京都大学 学際融合教育研究推進センター 超高齢社会デザイン価値創造ユニット](#)

["健康・医療・介護視点の全世代まちづくり"産官学民コンソーシアム PEGASAS](#)

ユニット長、コンソーシアム会長：今中 雄一（大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療経済学分野 教授）

■書誌情報

PEGASAS が考える Healthy Smart City の構造モデル

[（産官学民コンソーシアム PEGASAS）](#)

[（京都大学 超高齢社会デザイン価値創造ユニット）](#)

■関連部局

[学際融合教育研究推進センター 超高齢社会デザイン価値創造ユニット](#)

[情報学研究科](#)

[経済研究所](#)

[経済学研究科](#)

[法学研究科](#)

[こころの未来研究センター](#)

[人間・環境学研究科](#)

[総合生存学館](#)

[産官学連携本部](#)

[医学研究科](#)